

2026年2月2日

2026年3月期 第3四半期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社



ASKA Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

2026年3月期 第3四半期 決算ハイライト

売上高 (連結)

✓ **544億円、前同比9.1%増加**

国内事業が堅調に推移したことに加え、海外事業の寄与により過去最高を更新

売上原価

✓ **281億円、売上原価率 前同比0.7ポイント増加**

国内事業では横ばいとなったものの、海外連結子会社の取り込みにより増加

販売費及び 一般管理費

✓ **214億円、売上高販管費率 前同比1.3ポイント増加**

研究開発の進展に伴う費用の増加、販促費の増加等により、販管費率が増加

営業利益

✓ **49億円、前同比10.6%減少**

売上総利益の増加を上回る研究開発費等の増加により減益

2026年3月期 通期連結業績予想

単位：百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	64,139	71,000	6,860	10.7%
営業利益	5,331	6,000	668	12.5%
経常利益	5,107	6,000	892	17.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,101	5,000	△ 101	△ 2.0%

解説

✓ 海外事業の寄与に加え、第4四半期 研究開発費は計画どおりの着地を予想しており、
通期では増収増益の見込み

※ 2025年3月期第4四半期は一過性の要因により研究開発費が増加しました。

※ 業績予想は11月4日に公表した修正値から変更はございません。

損益計算書（連結）

単位：百万円	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	増減額	増減率
売上高	49,926	54,486	4,560	9.1%
営業利益	5,495	4,911	△ 583	△ 10.6%
経常利益	5,446	4,854	△ 591	△ 10.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,098	3,904	△ 193	△ 4.7%

増減要因

- ✓ 売上については、医療用医薬品事業や動物用医薬品事業が堅調に推移した事に加えて、海外事業の売上寄与もあり、増収となりました。
- ✓ 利益については、研究開発費等の販管費の増加により、営業利益は前同比10.6%減、経常利益は前同比10.9%減、親会社株主に帰属する四半期純利益については前同比4.7%減といずれも減益となりました。

セグメント別業績（連結）

単位：百万円

		2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	売上 構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	売上	44,055	45,332	83.2%	1,277	2.9%
	損益	6,203	5,822	—	△ 380	△ 6.1%
アニマルヘルス事業	売上	5,703	5,759	10.6%	55	1.0%
	損益	300	368	—	67	22.6%
海外事業	売上	—	3,240	5.9%	3,240	—
	損益	—	70	—	70	—
その他事業	売上	166	153	0.3%	△ 12	△ 7.7%
	損益	△ 25	△ 28	—	△ 2	—
売上合計		49,926	54,486	100.0%	4,560	9.1%

増収要因

- ✓ 医療用医薬品事業は、薬価改定の影響を受けつつも堅調に推移しました。産婦人科領域製品の「レルミナ」「ドロエチ」が前年に引き続き増加し、内科領域製品の「チラーヂン」「リフキシマ」は薬価のプラス改定の影響もあり大きく伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業においては、動物用医薬品が堅調に推移し、売上高は前同比1.0%増加しました。

※ Hataphar社を連結子会社化したことに伴い、「海外事業」を新たに追加しております

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

* 第3四半期時点において、各製品の年間見込額に変更はございません。

単位：百万円

領域	区分	製品	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期		2026年3月期		ご参考	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	期初計画	
内科	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	6,207	6,701	8.0%	8,628	6.3%	8,628	薬価上昇に加え、数量も増加
	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	6,659	6,148	△ 7.7%	7,800	△ 8.7%	7,112	薬価はダウンしたが数量ベースはほぼ維持
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	4,919	5,978	21.5%	7,517	16.4%	7,458	薬価上昇に加え、数量も増加
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	1,205	1,263	4.8%	1,629	4.0%	1,629	薬価上昇に加え、数量は微増
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	615	619	0.7%	790	△ 0.9%	756	前年度並みで推移
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	8,331	8,819	5.9%	10,949	4.0%	11,241	子宮内膜症でのシェア拡大に注力
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	5,673	6,353	12.0%	8,275	10.3%	6,064	薬価はダウンしたが、想定以上の数量増加
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	2,420	2,308	△ 4.6%	2,946	△ 6.5%	2,824	薬価はダウンしたが、数量は増加
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	1,834	1,751	△ 4.5%	2,199	△ 6.4%	2,228	他社競合品による影響
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	530	463	△ 12.5%	654	△ 3.2%	669	他社競合品の影響により数量は減少
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	601	538	△ 10.5%	612	△ 15.3%	580	想定よりも緩やかな減少
	先発品	経口避妊剤 スリンダ	—	242	—	539	—	—	6月30日発売開始。採用軒数は堅調に推移
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	3,104	2,963	△ 4.6%	3,814	△ 4.7%	3,814	先発品の影響により数量減少

※1 配合剤を含む ※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値
※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤とSR製剤（11.25mg、2025年12月発売）との合算値

主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

* 第3四半期時点において、各分野の年間見込額に変更はございません。

単位：百万円

事業分野	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期		2026年3月期	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	3,565	3,503	△ 1.7%	4,488	△ 2.1%
動物用医薬品 (畜水産+CA※)	2,106	2,109	0.2%	2,835	9.0%

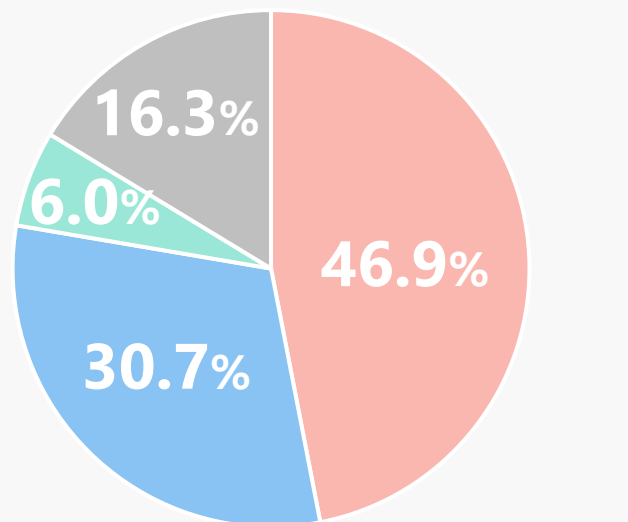
増減要因

- ✓ 飼料添加物等の分野では、販売数量は増加しているものの市況の影響を受け、前同比△1.7%となりました。
- ✓ 動物用医薬品分野では、畜産用医薬品とコンパニオンアニマル用医薬品が堅調に推移しました。
- ✓ 2026年3月期通期においても、動物用医薬品の伸長を見込んでおります。

※ コンパニオンアニマル

領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

領域別売上高比率 (2026年3月期 第3四半期)



■ 産婦人科

■ 内科（消化器・甲状腺）

■ 泌尿器科

■ その他内科等

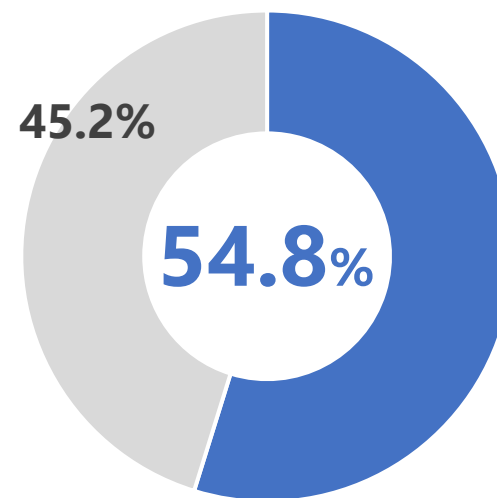
小数点以下第2位を四捨五入しているため合計しても100にならない場合があります

先発品・GE品売上高比率

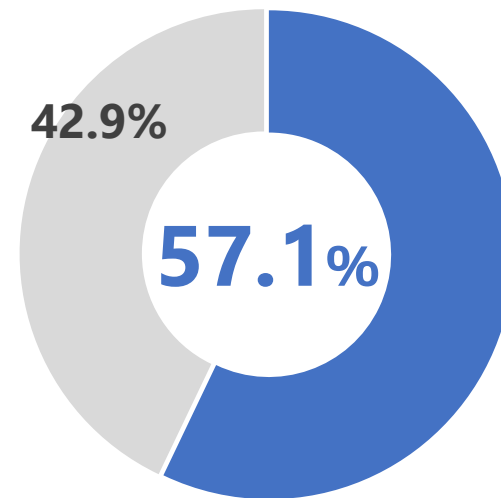
■ 先発品

■ GE品

2025年3月期
第3四半期



2026年3月期
第3四半期

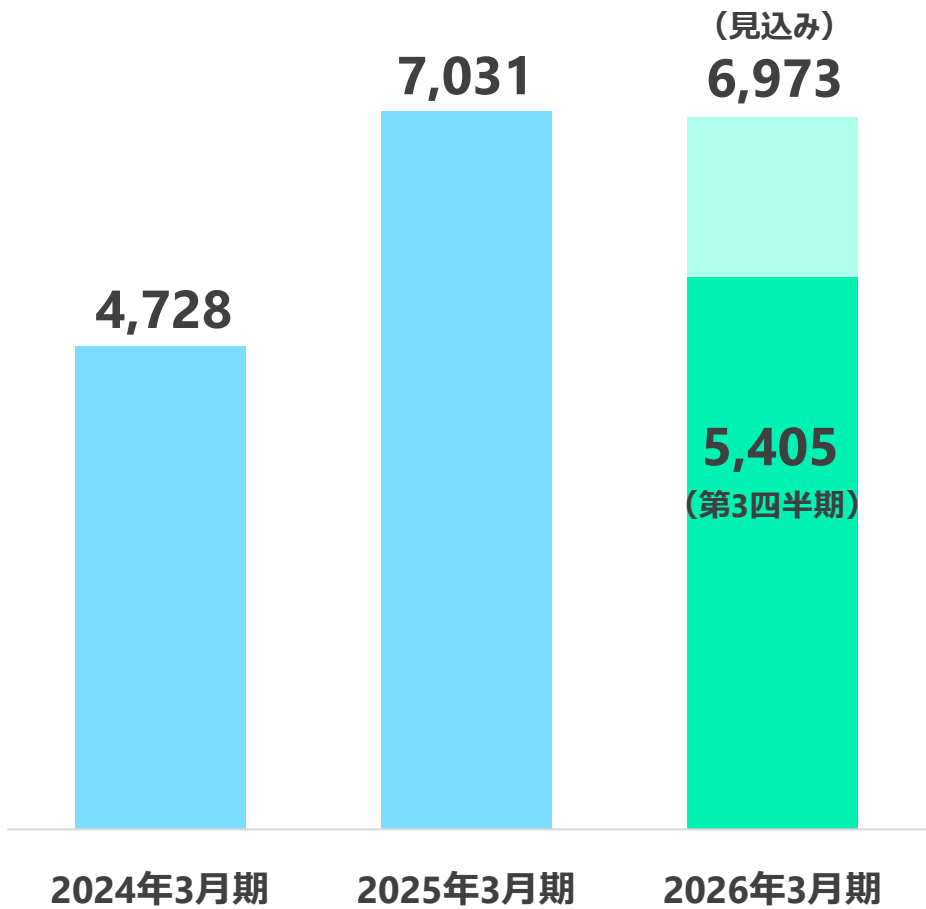


レルミナ、リフキシマ、チラーヂン等の伸長により、先発品比率は2.3ポイント増加

研究開発の状況

研究開発費推移

単位：百万円



2026年2月2日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	PhIII実施中
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮内膜症	PhIII実施中
LPRI-CF113 (ドロスピレノン) 月経困難症	PhI/II実施中
AKP-SMD106 (治療用アプリ※1) 月経前症候群・月経前不快気分障害 (PMS・PMDD)	特定臨床研究※2 実施中
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS)	開発準備中
MCN-009 (治療用アプリ※1) 過敏性腸症候群 (IBS)	検証的治験※3 実施中
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	PhII実施中
AKP-021 (mPGES-1阻害剤)	PhI実施中
AKP-017 (テストステロン経鼻剤)	開発準備中

※1 薬事上の一般的名称は新設予定のため未定

※2 医療用医薬品PhII相当、サスメド(株)との共同開発

※3 医療用医薬品PhIII相当、(株)MICINとの共同開発